

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 3	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Differential responses of serum gamma-glutamyltransferase to alcohol intake in Japanese males. 日本人男性におけるアルコール摂取とガンマーグルタミルトランスフェラーゼ (γ-GTP) の関係	
<b>執筆者</b> Matsuka Y, Wang DH, Suganuma N, Imai K, Ikeda S, Taketa K, Kira S.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Acta Med Okayama. 2003 Aug;57(4):171-8.	
<b>キーワード</b> γ-GTP、AST、LAP、ALDH2、アルコール飲酒量	
<b>要 旨</b>  <p>1,043 人の健康な日本人男性について、日常のアルコール摂取量とガンマーグルタミルトランスフェラーゼ (γ-GTP) や肝障害の指標となる他の血清マーカーとの関係について研究を行った。</p> <p>毎日のアルコール摂取量と γ-GTP、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)、ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP) の間には正の相関関係が認められた。(相関係数: log GGT: r=0.432, log AST: r=0.244, log LAP: r=0.246) しかし、1 日あたりエタノール換算で 70 グラム以上を摂取する多量飲酒者においては飲酒量と γ-GTP、AST、LAP との間に負の相関関係が認められた。(相関係数: log γ-GTP: r=-0.434, log AST: r=-0.424, log LAP: r=0.430) 一方、一日あたりエタノール換算で 70 グラム未満を摂取する中等量飲酒者においては飲酒量と γ-GTP、AST、LAP との間に正の相関関係が認められた。(相関係数: log γ-GTP: r=0.426, log AST: r=0.247, log LAP: r=0.216) 興味深いことに、アルコール摂取量と東京大学 ALDH2 表現型スクリーニングテスト (TAST) の成績との間には負の関連が認められた。また、γ-GTP と TAST の成績との間には正の関連が認められた。また、飲酒者には γ-GTP が上昇するグループ (反応が良好なグループ) と多量飲酒にもかかわらず γ-GTP が上昇しないグループ (反応が悪いグループ) の 2 つのグループがあることが明らかになった。</p>	